

自己点検評価報告書「書式A(事業)」 様式補足説明

○【定量的評価】

目標値は、中期計画・年度計画で目標値を定めた項目のみ記載している。

○【定量的評価】

評価は、以下の評定区分を使用している。

S：達成率 120%以上かつ質的に顕著な成果

A：達成率 120%以上

B：達成率 100%以上 120%未満

C：達成率 80%以上 100%未満

D：達成率 80%未満

※B評価が標準となる

○【年度計画に対する総合評価】及び【中期計画に対する総合評価】

評価は、以下の評定区分を使用している。

S：所期の目標を量的及び質的に上回る顕著な成果が得られている

A：所期の目標を上回る成果が得られている

B：所期の目標を達成している

C：所期の目標を下回っており、改善を要する

D：所期の目標を下回っており、業務の廃止を含めた抜本的な改善を要する

※B評定が標準となる

○【判定根拠、課題と対応】

「判定根拠」は記載を必須とし、「課題と対応」は必要に応じて適宜記載している。

自己点検評価報告書「書式B(博物館調査研究)」 様式補足説明

○【年度計画に対する総合的評価】の評定及び【中期計画の実施状況の確認】の評定について、定性的観点、定量的観点に留意しつつ以下の基準で総合的に評価している。

S：所期の目標を量的及び質的に上回る顕著な成果が得られている

A：所期の目標を上回る成果が得られている

B：所期の目標を達成している

C：所期の目標を下回っており、改善を要する

D：所期の目標を下回っており、業務の廃止を含めた抜本的な改善を要する

※B評定が標準となる

自己点検評価報告書「書式B(研究所・センター調査研究)」 様式補足説明

○【実績値】について

- ・収集資料数、論文数などの、定量的評価を行うことが適当である実績を記載している。
- ・記載した項目を「2. 定量的評価の観点」へ記載している。
- ・実績値があるが定量的評価の対象とすることが不適切な項目は、「参考値」と明記して本欄に記載している。

○【1. 定性的評価】の観点について

- ・下記の6つの観点から、当該研究プロジェクト等に応じた観点を選択の上記載している。
(観点の考え方)

- ・適時性→ 必要性、国際性、公共性、緊急性
- ・独創性→ オリジナリティ、新規性、卓越性
- ・発展性→ 多様性、応用性・汎用性、影響性
- ・効率性→ 時間的投資、人的投資、設備的投資
- ・継続性→ 期間、質・内容、量、基礎性
- ・正確性→ 数値・データ、達成値、網羅性

○【1. 定性的評価】の評定及び【4. 中期計画の実施状況の確認】の評定について
評価は、以下の評定区分を使用している。

S：所期の目標を量的及び質的に上回る顕著な成果が得られている

A：所期の目標を上回る成果が得られている

B：所期の目標を達成している

C：所期の目標を下回っており、改善を要する

D：所期の目標を下回っており、業務の廃止を含めた抜本的な改善を要する

※B評定が標準となる

○【2. 定量的評価】の観点について

- ・【実績値】欄に記載された項目について記載している。
- ・【実績値】欄内で(参考値)として記載された項目は記載しない。

○【2. 定量的評価】の評定について

評価は、以下の評定区分を使用している。

S：達成率120%以上かつ質的に顕著な成果

A：達成率120%以上

B：達成率100%以上120%未満

C：達成率80%以上100%未満

D：達成率80%未満

※B評定が標準となる

○【3. 総合的評価】の評定について

- ・定性的評価、定量的評価の各観点の評定(S～D)を下記にて数値化(5～1点)し、平均値を四捨五入して評定を算出している。

S = 5点、A = 4点、**B = 3点**、C = 2点、D = 1点 ※B評定が標準